

Credit where credit is due

科学へのさまざまな貢献に対して正当な評価を!

Nature Vol. 462(825)/17 December 2009

現在提案されている「著者識別システム」は、発表論文数や被引用回数という縛りから解放された、新しい学術評価制度の基盤となる可能性がある。日本でも、論文の数を優先する評価システムがさまざまな弊害をもたらしており、この新しい試みは検討に値すると思われる。(ND 編集部)

英国の心理学者メレディス・ベルビンは、その古典的著書『Management Teams』の中で、広範な実証的証拠を用いて、実効性のあるチームには9つの重要な役割を担当するメンバーが必要だと主張した。斬新なアイデアを生み出す創造的なプラント (plant)、計画を実行に移す訓練された実行者 (implementer)、大局の見地に立ってメンバー全員が常に協働できる環境を整備するコーディネーター (coordinator) などである。

科学においても、これとほぼ同じ数の役割・貢献が不可欠なのだが、現在の学術システムでは、不幸にもその一部だけが偏重されている。発表論文数や被引用回数といった測定が容易な指標だけが幅を利かし、昇進や終身在職権の審査で大きな比重を占めている。

Nature 2009年12月17日号843ページで取り上げられた研究グループは、ベルビンの分類によれば、補完的完成者 (completer finisher) に当たる人々だ。彼らは、完全なヒトゲノム配列決定 (参照配列) の完了に向けて努力しているが、その理由は、最初のヒトゲノム概要配列が発表された2000年からほぼ10年を経た今日でも、配列にはなおたくさんの誤りが残されているからだ。もちろん、それを正すことは非常に重要な作業である。最新のシーケンシング技術でも、新たな解読データの位置を決める際には、依然として、誤っているかもしれない配列が用いられているからだ。ところが、こうした作業が学術的に顕彰されることはほとんどない。そこから認知度の高い論文が生まれる見込みもない。

こうしたたえられないことのない科学に対する貢献が、今よりも容易に評価、定量化できる日がまもなく到来するかもしれない。2009年12月初めに提案され、トムソン・ロイターズ、ネイチャー・パブリッシング・グループ、大英図書館など23組織によって支持されている「著者識別システム」が、その手段となる。このシステムは、オープン・リサーチャー・アンド・コントリビューター ID (ORCID) という英数字列を用いて、個々の科学者を一意的に識別する (詳細情報と全参加組織のリストは www.orcid.org で

近日発表予定)。このシステムでは、世界中に山ほどいるスミス博士やワン教授をひとりひとり区別できる。改名、氏名表記順の文化的な違い、ファーストネームの略し方の不一致、あるいは使用アルファベットの違いにも左右されない。ORCID は発表論文に付記されることになっているが、生成にかかわったデータセット、同僚研究者のブログ投稿に対するコメント、あるいは未発表の論文草稿、ウィキペディア記事の追記などにも付記することが可能だ。

この種の科学者 ID を用いると、究極的には、個々の研究者の「デジタル履歴書」を常に最新の状態に保ち、単なる発表論文リストを超えて、科学に対する貢献の全体像を明らかにすることが可能となる。

ORCID は、初めて提案された著者識別システムではない。既にいくつかの出版社が、このような構想の実現を模索し、国際標準化機構 ISO (スイス・ジュネーブ) は、書籍、テレビ番組、新聞記事などのメディアコンテンツに寄与した者を把握するための国際標準の氏名識別子の開発に取り組んでいる。ただし、こうした開発作業に携わる組織のほとんどは、既に ORCID グループに参加し、あるいは同グループと密接に連携しており、誰もが自由に ORCID を利用できるようにして、既存の識別システムとも相互運用できるようにすることをめざしている。

ただし、その実現までには数多くの課題が横たわっている。特に重要なのは、付与された ORCID の確認と立証に関する厳格なプロトコルの制定である。このシステムが、自らの学術的証明書の水増しをしたいと考える者によって悪用されることは誰も望んでいないからだ。

しかし、最大の課題は、文化的な問題だと思われる。いづれにせよ、新しい評価指標は、研究資金提供機関、大学の管理部門、昇進や終身在職権の審査委員会など、学術評価制度にかかわるすべての人々に受け入れられる必要がある。科学における役割はいろいろあり、それぞれが評価を受け、顕彰されるべきであり、認知度の高い論文のみに限定されてはならない。(菊川要 訳) ■